

こどもが まんなか

いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信
No.5 令和5年2月16日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室
(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロード
できます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>



きらきら☆いわてっこ

「回せるようになりたいの！」

毎年行われる5歳児のコマ回し大会。B児はおにいちゃんが優勝したことから、「自分も絶対優勝する」と早い時期から園のコマを使って練習をしていました。勢いよくコマを回すB児を、周りの子どもたちは羨望の眼差しで見っていました。A児もその一人です。「B児はすごいなあ～コマ回し大会はB児が優勝だよなあ」とニコニコしていました。

そんな中、クリスマス会でサンタさんから一人一人に『コマ』をプレゼントされました。描くことが大好きなA児は、自分のコマを丁寧に仕上げ「僕のコマいいでしょ～」と友達や保育者に見せていました。ところが友達に「じゃあ競争しようよ」「回すときれいだよ」と言われ、「だって、回せないし」としょんぼりしてしまいました。B児や仲良しのC児が紐の巻き方や持ち方を教えてくれますが、なかなか上達しませんでした。

どちらかというとおっとりして、出来そうもないことは「後でやるからね」ということが多いA児が諦めずに取り組む姿に、担任は何とかしてあげたいという思いが膨らんできました。そして、子どもたちと相談をして、A児が回せるようになったら『コマ回し大会』をすることに決めたのです。するとA児は「今日うちにもって帰る」といってコマを持ち帰りました。後でお母さんに聞いたところ、お父さんとおじいちゃんに「コマ回せるようになりたいの！だから教えて！」と大きな声でお願いしたそうです。

ご家族の協力と友達や保育者の支えで、A児はみごとにコマが回せるようになり、『コマ回し大会』が開催されました。A児は優勝はしませんでした。涙を流しながら友達に拍手を送る姿がありました。

その後、バケツの上で回るコマ、坂道を移動するコマ、細道で落ちずに回るコマなどにチャレンジしたり、赤白に分かれて対抗戦をしたり、お盆にコマを乗せてコマリレーをしたり、様々なコマ遊びを楽しむ姿が見られました。

コマ回しは、目標を設定し達成することに楽しみを感じる5歳児にとっては、発達段階に合致した絶好の遊びと言えるでしょう。コマ回しに取り組む中で子どもたちはさまざまな体験をしています。

不安になったり、投げ出さずに耐えたり、自分で自分を励ましたり、友達との関わりの中で教え合ったり、認め合ったり、助け合ったり、負けたくないと思ったり、達成感を味わったり…

このような一連の体験は、自分で課題を乗り越えたという意味で本物の自信、その子のチカラとなっていくことでしょう。



※コマ回しは、「微細運動」や「目と手の協調性」、「バランス感覚」が作用し、子どもの発達に良い効果が期待できるとされています。



保育の環境には、保育士等や子どもなどの人的環境、施設や遊具などの物的環境、更には自然や社会の事象などがある。保育所は、こうした人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かになるよう（中略）計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。

保育所保育指針(平成29年3月31日)(厚生労働省告示第百十七号)参照

🌸子どもたちの身の回りにあるものすべてが環境です🌸

玩具の意味を考えてみる

そもそも・・・子どもにとって何の為に、その玩具、モノをその位置に置いているのか？

未来の自園を考える

未来の自分の園は、環境はどうなっていたら良いと思いますか？ そのためには何が必要だと思いますか？

この問いは、R4年10月に行われた岩手県保育技術研修会の講義「保育者の保育力向上のために」の中で、講師の曾木書代先生が私たちに投げかけたものです。

訪問支援の際、「どのタイミングで環境を片付けたらいいか悩む」「新しい環境をどう作っていったらいいかわからない」「主体的に関わる環境になっているかよくわからなくなる」など、環境に関する悩みの声が多く聞かれます。

『未来の』とは将来的な展望はもちろんですが、今を過ぎた時間すべてです。次の活動の、明日の、来週の環境がどうなっていたら主体的で対話的で深い学びになっていくのでしょうか。悩み解決の糸口は、きっと子どもたちが教えてくれるはずです。



目的をもって作り上げてきた環境は、出来栄に大満足し、作り上げた達成感を子どもたちにもたらししてくれます。

ばらしたり作り替えたりするのは「もったいないなあ」という感情がわき、勇気もいることでしょう。しかし子どもたちは、再構成した環境にまた関わり、新しい発想が生まれるとともに、新たな意味を持つ環境として遊び込んでいくのではないのでしょうか。

環境には、子どもの育ちを支えるその場その時の意味が必ずあります。



★★ 地域のアドバイザー紹介 ★★

〈雫石町の公立保育所に配置されている保育アドバイザーの活動の様子を参観し、お話を伺ってきました。〉

公立保育所の所長先生だったという保育アドバイザーは、週2回（月、木）に、主に若手担任のクラスの保育に加わり、担任が保育する姿を見て豊富な経験を基にアドバイスをしています。また、午睡時には、園長や主任も交えての振り返り（15～30分）を行っています。この時間が、保育者同士で新たな気づきが生まれたり、保育の方向性を共有したりする貴重なOJTの時間となっています。

園ではアドバイザー日誌を活用し、保育アドバイザーが挙げた課題と思われることに対して、どのように取り組んだかを担任が記入する等、PDCAサイクルが回るような取組をしています。

他の公立保育所のアドバイザーと情報共有する「アドバイザー会議」は2か月に1回行っています。若手保育者は、「(アドバイザーの活動により)自分が気付いていないところを気付かせてもらえる。だんだん自分で気付けるようになっていきたい」と効果と抱負を話してくれました。



県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちのウェルビーイング(幸福)をめざしていきます。